

畸形発生ノ原因

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/37934

性質トシテ(1)注入料ノ成分タル色素ハ安全ナル化合物ナルヲ(2)色素粒子ガ極メテ小ナルヲ(3)色素粒子ガ動物膜ヲ竄透セザルヲ(4)色素粒子ガ組織固定液ニ依リテ所謂不溶性ニ變ズルモノナルベキヲ述ベ尋デ之等ノ條件ヲ充スルモノハ一般ニ色素ノ膠態溶液(Kolloide Lösung)ナルベキヲ説キ而シテ良好ナル「カルミン」「プルシアンブリウ」等ハ何レモ膠態溶液ニ屬スルモノニシテ之レニ配伍セラレタル膠又ハ變性膠ハ之等ノ色素ニ對スル保護膠質(Schutzkolloid)ト看做スベキヲ説ケリ。從テ「プルシアンブリウ」ヲ化生セシムルニ當リテハ黃血鹽ノ溶液ニ鹽化第二鉄ヲ注グベク、其反對ニスベカラザルハ、概ネ之レ等二液ノ混合ニ依リテ發生スル陰性膠質ニ屬スル「プルシアンブリウ」ニ「鉄イオン」(Fe⁺⁺⁺)ノ作用ヲ防グ爲メナルベキヲ膠質化學ノ見地ヨリ説明セリ。(自抄)

畸形發生ノ原因

客員 松原三郎君

余ノ實驗例ハ第四掌骨及蹠骨ノ異常ニ發育不完全ナルモ

ノ三例ニシテ又之ヲ成書ニ見ルニ指趾ノ癒着ノ如キ畸形ハ第四指ガ之ニ關係スルコト最モ多シトスルモ其原因ニ至リテハ之ヲ知ルニ由ナシ

畸形發生ノ原因トシテ解知ノ事實ハ胎兒ガ器械的ニ外傷、震盪、³迫等ヲ受クルカ或ハ溫熱的、毒物的ノ有害ナル影響ヲ蒙リテ胎生時期ニ於ケル發育ヲ妨害スルニヨルナリト云フニアリ

然ルニ斯ル臆説ノミニテハ此指趾ノ畸形中ニテ殊ニ第四指趾ニ畸形多キコトヲ説明スルニ足ラズ余ハ之ヲ神經緊張説ヲ以テ之ヲ説明セントスルナリ

指趾中ニテ獨リ第四指趾ノミハ二種ノ異レル末梢神經ヨリ支配セラル、モノニシテ即チ指ニテハ正中神經及尺骨神經ヨリ支配セラレ趾ニテハ內足蹠神經及外足蹠神經ヨリ支配セラレ其他ノ指趾ハ皆一種ノ神經ヨリ支配セラルルナリ

斯ク二種ノ神經ヨリ支配セラル、ヲ以テ單一ノ神經ヨリ支配セラル、モノト異リ其神經支配ノ緊張力 *Innervationsstärken* ハ爾他ノ指趾ヨリモ薄弱ナルヲ免レザルナリ

故ニ第四指趾ニ來ル腱ハ又他ノ指趾トハ異リ且ツ腦出血

等ノ時ニハ第四指ガ運動障礙ヲ蒙ルコト最モ著明ナリ
要スルニ神經支配緊張力ハ組織ノ發生上ニ重要ナル意義
ヲ有スルモノナルコトヲ余ノ例ニ於テ推測スルコトヲ得
タリト信ズルナリ

臨床的ニ於テモ身体ノ左側ニ於テ疾患ヲ見ルコト多シ例
バ神經衰弱症及「ヒステリー」ニ於ケル知覺異常ハ右半身
ヨリモ左半身ニ來ルコト多シ顔面神經麻痺、坐骨神經麻
痺等亦然リ從來此現象ヲ説明セルモノナシ余ノ考ニヨレ
バ右側大腦半球ハ左側ヨリモ發育不良ニシテ諸中樞ハ左
半球ニ多キモ右半球ニ少ナシ爲メニ發育不良ナル右半球
ヨリ支配セラレテ神經支配緊張力ノ微弱ナル左半身ニ疾
患ヲ見ルコト右半身ヨリモ多キナリト自信ス故ニ神經ノ
支配緊張力ハ組織ノ發生上及ビ罹病の素因上ニ重大ノ關
係アルモノト信ズ。(自抄)



抄 錄

●腦脊髓液ノ糖化酵素

(九州帝國大學醫科大學雜誌第十卷一、二號)

醫學士 角 田 俊 吉

著者ハ急性炎症ヲ呈セザル腦脊髓液ノ器質的及官能的疾患ヲ有スル者ノ腰
髓穿刺液ニ就キチールゲムート氏ノ糖化酵素測定法ヲ應用シテ検査シタル
結果ニヨレバ〇・一六一〇・二^{38°}_{24h}ニシテ常ニ殆ンド一定セルヲ看タリ更ニ
氏ハ二十例ノ無炎症性腦脊髓疾患ヲ有スル者ノ脊髓液ヲ檢シタルニ^{38°}_{24h}ノ
値ハ〇・二二一〇ニ結核性腦膜炎ニ在リテハ〇・八一〇以上、流行性腦
膜炎ニ在リテハ〇・二一〇・四ナルコトヲ實驗シ糖化酵素ノ量ハ一般ニ炎症
症候ニ伴フテ増減スルモノナルヲ説ケリ。

著者ハ彼ノ實驗ニ基キ糖化酵素ノ増加ハ炎症產物ニシテ糖化酵素値ハ其ノ
液中ニ存スル細胞ノ數並ニ其種類ニ殆ンド何等ノ關係ナキガ如シト爲セ
リ。(醫化學教室井上抄)

●血清糖化酵素(殊ニ内分泌方面)

ヨリセル)ノ研究

(福岡醫科大學雜誌第十卷第一第二號)

醫學士 角 田 俊 吉